ユリ・ホニング・アコースティック・カルテット
[左から]Joost Lijbaart(Ds), Wolfert Brederode(Pf), Yuri Honing(Sax), Ruben Samama(Bass)

Talk Jam .2

Yuri Honing

ユリ・ホニング

モダン・クリエイティヴなオランダの実力派が本格日本上陸

ジャズ熱が高いことで知られる北欧のオランダから注目のサックス奏者が本格的な日本上陸を果たした。最新アルバム「トゥルー」を携えて「東京JAZZ 2012」のステージに立ったその男の名はユリ・ホニング。アーティスティックで静謐なヨーロピアン・ジャズならではの魅力に満ちた彼の音楽性に迫った。（文:櫻井隆章）

今やオランダを代表するジャズ・サックス奏者となっているユリ・ホニング。2011年に「横浜ジャズ・プロムナード」に出演するために来日したのが日本初上陸で、今回の「東京JAZZ」への来日が二度目となる。190センチは越えようというスリムな長身で、ジャケットなどの写真では少々気難しそうに写っているが、実際には笑顔の優しいナイス・ガイである。ジョークも多い男性だ。

「僕が使っている楽器はフランス・セルマーのマーク6だよ。リガチャーは、何処のだろうな？ 考えたこともなかった。買った時に付いてきたモノをそのまま使っているからね。僕がこの楽器を買ったのは、以前に住んでいた家の隣がアメリカ人の一家で、その家に行くとリビングにいっぱい楽器があってね。その中にこの一本があったんだよ。でもその一家がアメリカに帰ることになって、だったら荷物も少ないほうが良いだろうと、このテナーを売ってくれない？と訊いたのがきっかけさ。だから、お店で売られている値段よりも相当に安く買ったことになるね（笑）。それと、僕はソプラノも吹くんだけど、そっちはヤマハ製の楽器だ」

彼は現在、二つのバンドを率いている。今回来日したアコースティック・カルテットと、エレクトリックなバンドの二つだ。この二つを彼は使い分けながら活動している。

「それぞれ、まったく異なったジャンルの音楽をプレイしているんだけど、同じようにメンバーの顔触れも違うよ。アコースティックのほうにいるメンバーは、やっぱり知的で礼儀正しいほうの人たちかな。一方でエレクトリック・バンドのメンバーたちは、かなりラフだと言える（笑）。もっと、ロック的なアプローチの音楽をやっているんだ。いつか、そっちのグループを連れて日本に来てみたいな」

今年の「東京JAZZ」では、彼は9月8日（土）、国際フォーラムの野外ステージ「ザ・プラザ」に、夕方5時から出演。満員の観客を前に、涼風を吹き込むようなプレイを展開した。そこでは、彼のアコースティック・カルテットによる2011年ベルリン録音の最新作「トゥルー」からのナンバーを中心に演奏し、まだまだ彼の名前に馴染みのない観客も彼の音楽の魅力に取り込んだのだった。

「僕の両親は二人共にピアニストでね。僕には二人の兄がいるんだが、長兄は元ピアニストで今は音楽教師をしている。次兄はドラマーだ。完全な音楽一家でね。で、僕が13歳の時にスイスのモントルー・ジャズ・フェスティヴァルに一家で行ったんだよ。ある朝、11時頃にサックスの音がするのでホテルの部屋のバルコニーに出てみたら、隣のバルコニーでスタン・ゲッツがプレイしていたんだ。あれには驚いたな。だから僕の最初のサックスのヒーローはスタン・ゲッツなんだよ。で、実際の夜のライブでのプレイも素晴らしいし、何処に行っても彼は特別扱いされている。それに何と言っても常に多くの美しい女性たちに囲まれていてね。あぁ、こんな人生を歩むのも悪くないなと思ったんだよ。何せ僕は13歳の子どもだったから(笑)。その時のフェスには、他にデクスター・ゴードンとかも出ていて、フェス自体が素晴らしいものだったな」

こうしてユリ少年はプロフェッショナル・サックス奏者への道を歩み始めたのだった。そして現在に至る。

「僕の名前、ユリってのは日本語では花の名前なんだって？ 英語で言うとリリーのこと？ それも何となく可笑しいね。僕は男なのにね。まぁサウンドが同じということだけなのだろうけど、でも不思議な縁を感じちゃうよね。だから、もっと日本に来られるような機会が増えると良いんだけどね」

「禅」にも興味があって習っているという彼は、実に日本文化に興味津々。彼の奏でる各種のジャズが、更に日本で人気を得るようになるのも間近いと思われる。

■CD Information

ユリ・ホニング・アコースティック・カルテット「トゥルー」
【CR-73336】
発売元：CHALLENGE RECORDS
【収録曲】True / Paper Bag / End of Friedrichsheim / Borchardt / Paper Bag(reprise) / Bring me the discoking / Yasutani / Nobody Knows / True(reprise)
【Member】Yuri Honing(Sax), Wolfert Brederode(Pf), Ruben Samama(Bass), Joost Lijbaart(Ds)

■PROFILE ユリ・ホニング
1965年7月6日、オランダ生まれ。1990年頃から自己のトリオで活動を始め、多種多様なアルバムを発表してきた。現在はエレクトリックとアコースティックの二種のバンドを率いている。これまでにグループを率いてアバやポリスの曲をアレンジした作品や、オランダの重鎮ピアニストとのデュオ作、ゲイリー・ピーコックやポール・ブレイ、ポール・モチアンなどのベテランたちとの共演作にシンフォニー・オーケストラとの共演盤など、幅広いジャンルのジャズを残している。